

井上哲也 後援会ニュース



任期最終となる今年度も 吹田の未来のために全力で改革に取り組みます

昨年11月に人口36万人を突破した吹田市。少子化や人口減少が叫ばれる時代にあつて、「選ばれる自治体」であることを誇りに思っています。

みなさん、あらためて吹田のまちをご覧ください。国立循環器病研究センターの移転建替、JR岸辺駅周辺まちづくり、万博公園のサッカースタジアム建設やエキスポランド跡地開発をはじめとする千里ニュータウン再生事業、南吹田にJR新駅建設など吹田のまちのパワーアップ・プロジェクトが目白押しです。

こうしたチャンスを最大限に生かしながら、お子さんからご高齢の方まで、だれもが「住みよい」「住んでよかった」と思えるまちを実現します。任期の最終となる今年度は、みなさまにお約束した「未来に希望のもてるまちづくり」「明るい元気なまちづくり」の総仕上げの年、全力をそそぎやり遂げてまいります。

今後ともみなさまのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

吹田市長 **井上 哲也**

ガンバ大阪「新時代」へ 夢と感動の新スタジアムとともに

J2で戦った昨シーズン、みんなで一所懸命応援したかいがあつて、ガンバ大阪がJ1に帰ってきました。出足がちょっとゆったり…なのは残念ですけど、これから燃える夏へパワーアップ！を期待しましょう。もちろん、選手ばかりではありません。わたしたち吹田市民、サポーターも大いに燃え、ガンバ大阪の新時代を新スタジアムとともに拓き開こうではありませんか。

新スタジアム建設には莫大な資金がいります。しかし市費でまかない、そのツケを将来世代に先送りすることはできません。では財政非常事態を宣言した吹田市はどう取り組むのか…。

井上市長の秘策は**スポーツ振興くじ助成金**の獲得にありました。見事な政治力でこれを実現し、市民・サポーターが情熱を注ぐ寄附集めにも全力で取り組んでいます。そうした情熱と努力により、最初誰もが「はるか遠い」と思っていた目標額140億円も、6月末には132億円集まり、目標達成まであと少しとなりました。

「夢の新スタジアム構想」は、平成27年秋の完成をめざし、いま一步一步、着実に進んでいます。

ガンバ大阪のファンのみなさん！

吹田市民のみなさん！

ガンバ大阪の新しいホームスタジアムから、子どもたちもご高齢の方も、市民みんなで力をあわせて元気な吹田のまちをつくっていきましょう。



©スタジアム建設募金団体

国立循環器病研究センター 移転建替へ 世界初の「循環器病予防のまちづくり」モデルがスタート

昨年6月、待ちに待った国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転建替が決まりました。一時は、「箕面市がふさわしい」などと報道されましたが、吹田市各界の熱い期待と願いを受け背水の陣でのぞんだ井上市長の熱意がついに実を結びました。

井上市長は、自らたびたび上京し、厚生労働大臣に「国循にふさわしいのは吹田市において他にない」ことを説いてきました。今回の決定により、老朽化がすすむ吹田市民病院もこの地に移転して建替え、国循と市民病院をコア（核）に新たな医療ゾーンの形成を進めてまいります。

現在の計画では、医療と研究の最先端を行く国循と、市民の安心の医療をになう市民病院が、平成30年度をめどに、吹田操車場跡地に誕生します。

日本は少子高齢化が進み、生産年齢といわれる15～65歳の人口が減っています。こういう時代だからこそ、吹田市は循環

器病の予防と治療、健康づくりをまちぐるみで進めようとしています。その「モデルプラン」には、国内はもちろん諸外国も大きな関心をよせており、まさに**世界をリードする健康都市**として吹田市が脚光をあびています。

かつて無数のレールが交差した東洋一の操車場は、吹田市民の夢と希望をにない世界にひろがる新しい街に生まれかわります。そんな一大プロジェクトが日々すすみつつあるJR岸辺駅周辺の街並みの変化を、みなさんの目でじかに確かめください。



※JR岸辺駅北側の建築物の位置関係を示すイメージ図です。実際の建築物の形状と道路整備の状況とは異なります。

▲JR岸辺駅前のイメージ図（吹田市HPより）

井上哲也後援会事務所

〒564-0022 吹田市末広町21番53号
☎06(6319)2345 FAX 06(6319)2377

発行責任者：尾高栄次

ホームページ
<http://inoue-tetsuya.com/nex/>
Eメール：its@amber.plala.or.jp

